

# 高等学校における 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けて

【家庭科編】

平成30年度 高等学校における教科指導充実に関する調査研究  
栃木県総合教育センター 平成31年3月

## 今の生徒たちが社会で活躍する時代 …… 2030年を見据えて

今の高校生たちが社会で活躍する2030年頃には、日本は「厳しい挑戦の時代」を迎えていると予想されています。少子高齢化に伴う生産年齢人口の急激な減少やグローバル化の進展、技術革新や人工知能(AI)の進化等により、社会の構造や雇用環境が大きく変化し、その変化が加速度的に進むものと考えられているからです。そのような社会においても、人間が人間らしい感性を豊かに働かせながら、未来を創造し、社会や人生をよりよいものにしていくためには、どのような資質・能力を身に付ける必要があるのかということを踏まえて、新しい学習指導要領がつけられました。

## 新しい学習指導要領の方向性と「主体的・対話的で深い学び」

平成28年12月に中央教育審議会が出した答申を踏まえて、高等学校の新しい学習指導要領が平成30年3月に公示されました。今回の学習指導要領改訂では、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「新しい時代に必要となる資質・能力」を三つの柱に整理した上で、「何を学ぶか」という学習の目標や内容の見直しとともに、「どのように学ぶか」という学びの過程についても見直すよう求めています。

これまで、学習指導要領では「生きる力」の育成を基本理念として、各教科・科目で学習する内容について定めてきました。今回の改訂では、「生きる力」を捉え直して育成すべき資質・能力として整理した上で、知識・技能の習得だけでなく、それらを活用することで課題の解決に向かったり、よりよい社会の形成に役立てたりすることを目指しています。

そのために必要となるのが、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善です。これは、授業に活動(アクティビティ)を取り入れた「アクティブ・ラーニング」の実施を意味するものではありません。「主体的な学び」の実現、「対話的な学び」の実現、「深い学び」の実現という視点で、これまでの授業を見直し、「教師が教える授業」から「生徒が学ぶ授業」への質的転換を図るという意識が重要です。

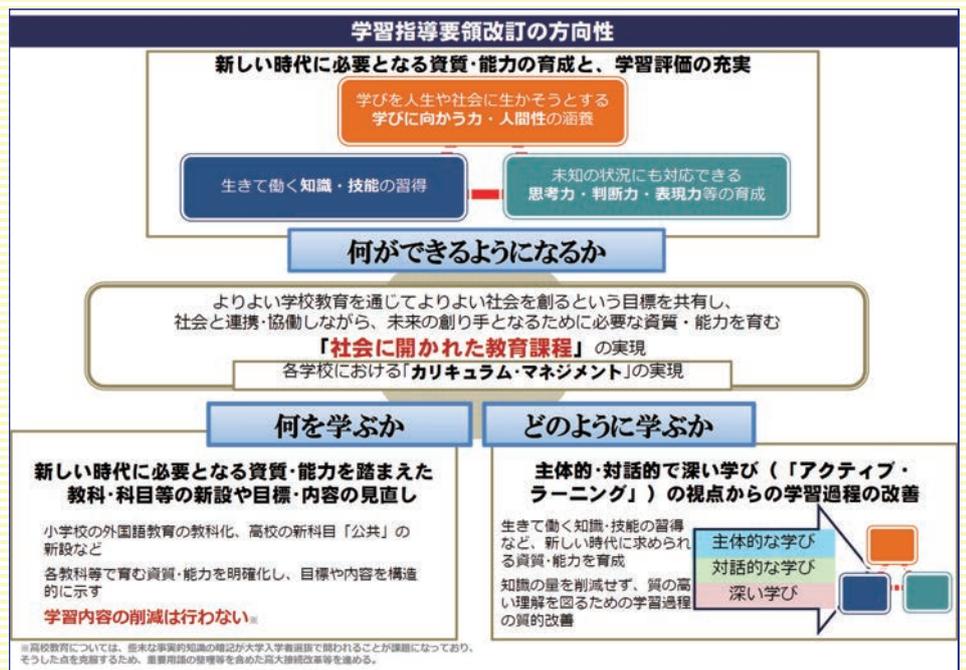


図1 学習指導要領改訂の方向性

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月)補足資料より

# 事例1 「食事と健康」における指導の工夫

～ 対話を通して、「和食のよさ」を考えよう ～

## 単元(科目) 食生活を見つめよう (家庭基礎)

### これまでの課題

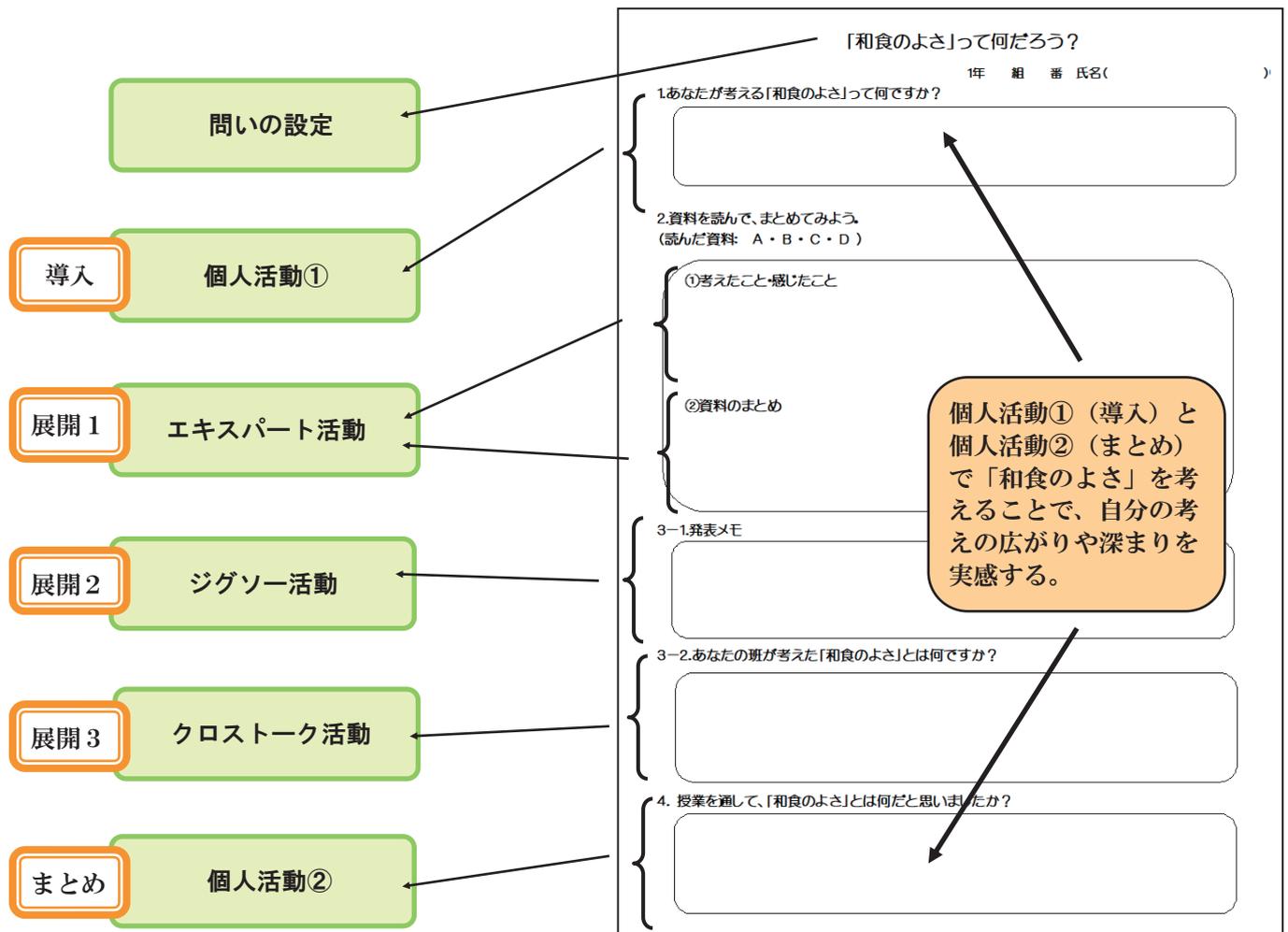
生徒にとって食に関する興味・関心は高い。しかし、生徒は自身の食生活が満たされているため、自分以外の食生活については関心が低く、授業で扱われる食生活は一般論として捉えられ、自分事としての学びになっていない。そのため、学習した内容から自分の食生活を振り返り、改善につなげようと実践する生徒は少なかった。

### 授業改善のポイント

生徒たちが自分の食生活について振り返るために、クラスメイトとの対話を繰り返すことで、食生活に対する多様な考え方を知る授業実践を行った。「和食のよさ」について考え伝える活動を通して、日本の食生活の変遷から現代の食生活の問題点を知るとともに、生涯を通して健康に過ごすための食生活に課題意識をもてるようにした。

### 事例の概要

次のように、ワークシートを作成し、授業展開の工夫を行った。なお、この展開を構想するに当たっては、東京大学 CoREFの知識構成型ジグソー法 (<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>) を参考にした。



# 授業の様子

## 展開1

4ブロックに分かれ、それぞれの資料を読み解く。

資料A…日本型食生活（一汁三菜）、5つの味（甘・塩・酸・苦・うま味）  
資料B…年中行事と郷土料理（しもつかれ）について  
資料C…旬のものと器の一工夫がおもてなしであることについて  
資料D…国民1人1日当たりの供給純食料と和食の進化について



真剣に資料を読む様子

## 展開2

- 1 資料Aから順に、資料について説明し、情報の共有をする。
- 2 「和食のよさ」について協議する。

「和食のよさ」  
で一番考える  
ことは何かな？

おもてなしかな？

栄養バランスが  
よいことかな？

みんなの説明はど  
れも大切なことば  
かりだね。  
でも、一番のよさ  
は何だろう？

## 展開3

班で考えた「和食のよさ」をもとにグループ発表。  
「ホームステイに来た外国の高校1年生に和食のよさをPRしよう！」

## 導入

### 個人活動①

バランスがよい。  
体によい。  
盛り付けがきれい。

「和食のよさ」  
について考える



生徒の記述の変化

## まとめ

### 個人活動②

毎日食べるのは難しいけれど、日本型食生活というものがあればバランス良く毎日続けることができそう。和食は料理でおもてなしが込められていて、作る側も食べる側も楽しめる。

個人活動①と個人活動②に、同じ問いについて考えることで、自分の考えが広がったり深まったりすることに気付くことができました。



# 成果と課題

## (1) 成果

本事例では、和食について、異なる視点の資料を与え、その資料の情報から分かったことや考えたことを説明し合い、互いの意見を理解するジグソー法を活用し、対話を通して考える活動を取り入れた。

導入とまとめに個人活動の時間を確保したが、同じ問いから考えることで、自分の考えを確認するとともに、自分の学びの変容が自覚でき、このような場面を設定することが大切だと実感した。生徒は、個人活動①の考えに加え、個人活動②では、授業の学びから自分の食生活を振り返り、改善に向けての考えや、これからの自分の食生活についての考えも記入していた。単に「和食のよさ」に気付くだけでなく、生涯を通して健康に過ごすために必要な考えにまで及んでいることが分かる。生徒の授業後の振り返りの意見の中には、「和食のよさを考えることで、地産地消の必要性や郷土料理への思いが分かった」「グループのメンバーと意見交換をすることで、バランスのよい食生活に対する考えが変わった」「今までいかに濃い味付けを好んでいたかが分かり、素材やだしのうま味を生かす調理法を考えた」「食材を使い切る方法を考えた」等があった。対話によって多様な考えに気付き、望ましい食習慣、環境に配慮した食生活、食文化の継承に対する問題意識へと、つなげることができた。今回の学びが、授業だけにとどまるのではなく、生涯に向かって広がったと考えられる。

## (2) 課題

食生活に関心がない生徒に、どうすれば自分事として取り組むことができるのか、適切な問いをよく吟味して設定することが必要である。問いによって、自ら食生活について様々な視点から学び、対話を通して繰り返し考えることで、多様な選択肢の中から自分の価値観を見いだすことが可能になる。そのためにも、生徒の実態に応じた適切な問いを設定し、その解決の糸口となる対話が生まれるような授業実践が大切となる。



# 事例2 「衣生活の科学と文化」における指導の工夫

～ 対話を通して、「これからの衣生活」を考えよう ～

## 単元(科目) 衣生活の計画と管理 (家庭総合)

### これまでの課題

これまで、対話的な活動を授業の中に取り入れることは難しいと感じていた。そのため、教師主導の知識伝達型の授業が多くなりがちであった。その結果、衣生活について学んだことを実生活と結び付けて考え、実践する姿勢につなげられていない。

### 授業改善のポイント

衣生活への関心を高める課題に取り組むことで、衣生活について自分の考えをもち、対話を通して多様な考え方を知ること、よりよい衣生活を模索することができるように工夫した。また、衣生活を取り巻く現状について、消費者や企業など様々な角度から考えるを通じ、自己の衣生活の課題を見つめ、装うことを楽しみながらも、環境負荷の少ない衣生活について考えをもつことを目標とした。

### 事例の概要

本事例では、衣生活の現状について消費者や企業等の考えに触れ、対話を通して、よりよい衣生活を送るにはどうしたらよいかを考える。その考えを言語化、可視化することで、健康と安全に配慮した衣服購入と活用、資源や環境に配慮した衣生活についての考えを深める。

### 授業の様子

#### グループ活動①

(7) 資料を読み、互いに説明し合う

衣生活について、多様な意見が出るよう、「消費者」「既製服の生産と流通(企業)」「循環型社会の持続に配慮した衣生活」の3つの立場から述べた資料1～4を配付した。

- 資料1… 大量に出される不要衣類と、衣類のリサイクル率が非常に低いという現状(消費者)
- 資料2… 新品の服の売れ残りが大量に焼却処分されていたニュース(企業)
- 資料3… ファッションの流行がつくられる仕組み(企業)
- 資料4… 江戸時代の循環型衣生活(循環型社会の持続)



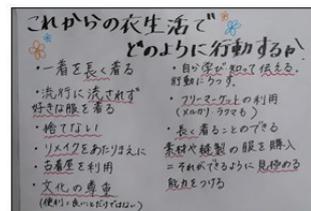
(イ) 現状の衣生活について考え、問題点や課題について話し合う

- ① 自分の考えを付箋に書く
- ② 付箋を貼り出しながら、話し合う
- ③ 付箋を分類、整理する



(ウ) これからの衣生活でどのように行動していくべきかについて話し合う

- ① 自分の気付きや考えを話す
- ② 共通点や相違点に気付く
- ③ 自分たちの考えを表現する

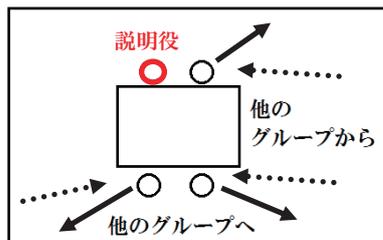


## グループ活動②

他のグループと情報交換を行い、考えを広げる

限られた時間の中で、自分のグループ以外の考えを知り、対話を通して共有することで、更に新たな視点を得られるように、情報交換をします。

一人一人が、意見を交換することで、考えが広がります。



情報交換の動き



これからの衣生活について説明をする様子

## グループ活動③

他のグループで得た情報を互いに報告する



自分のグループに戻り、他のグループから持ち帰ってきた内容を、自分のグループのメンバーに報告します。自分たちのグループも含めて4つのグループの意見を共有することができます。

## 個人活動

服選びのポイントを3つ考える

本当に必要な？  
どれくらいの期間着るかな？  
流行に左右されているかな？

授業後

運命を感じたもの。  
好きかどうか。  
サイズ感。

授業前

## 個人活動

これからの衣生活で自分がとるべき行動について考えをまとめる

衝動買いが多く、結局ほとんど着ないで捨ててしまうことがあるので、企業や生産者のこともよく考えてから購入したい。インターネットを利用して服を購入するときは実物を確認することができないので、サイズや組成についても検討したいと思います。



## 成果と課題

### (1) 成果

本事例で扱った「これからの衣生活で自分たちがとるべき行動は？」という課題は正しい答えのないものである。したがって、対話による学習活動等を通して、多様な考えの存在に気付くことが重要になる。対話にも様々な形があるが、本事例ではワールドカフェの手法を用いた。グループとして1つの結論を出すのではなく、一人一人が自由に意見を交わすワールドカフェ方式は、個々の考え方の違いが明確に現れ、より多様な考え方に触れることができると考えたからである。生徒たちは、日頃から個性や目的に応じて衣服を購入しており、衣生活は身近なものである。しかし、生涯を通じて衣生活の計画と管理が適切にできるようにするためには、個人の価値観にとらわれるだけでなく、消費者や企業などの観点に立って考え、より多くの考えに触れる必要がある。ワールドカフェ方式で、対話を繰り返し行うことにより、様々な考え方に触れ、「そんなことは考えたこともなかった」、「自分もそうしようかな」等の発言があり、よりよい衣生活を追究する姿勢を育むことができた。ワークシートを見ると生徒の記述の中に、「廃棄」「着ないで捨ててしまう」「見直す」という言葉が入っており、自己の衣生活の課題にも気付いたことが分かる。また、その解決の糸口として、「長い期間着用」「サイズや組成についても検討」「リメイク」という言葉が出てきたことから、消費者として既製服を入手するために必要な情報や循環型の被服計画の必要性に気づき、各自の生活スタイルに合わせたよりよい衣生活に関する思考が深まったことが分かる。

### (2) 課題

家庭科において大切なことは、生活の課題を自ら解決する実践力を育むことである。単元計画の中に、ホームプロジェクトを位置付けることで、実践力を身に付けることを可能にすることができる。生徒が主体的に生活を営むことができる実践力を身に付け、継続できるための指導について、日々の授業の中で探っていくことが大切である。



# 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

平成28年12月に中央教育審議会から出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(以下、「答申」と表記する。)の中で、「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な考え方が示されました。それを踏まえて、三つの視点それぞれについての留意点等を以下にまとめます。

## 主体的な学びの実現に向けて

① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

《「答申」より》

生徒が主体的に学ぶためには、学びの有用性や必要性を認識させるとともに、生涯にわたって学び続ける力を身に付けさせる必要があります。そのためには、例えば、学習内容と日常や社会との結びつきや、自分のキャリア形成との関連に着目させながら、自発的に学びたいという興味・関心を引き出すように工夫することが大切です。また、学習の「見通し」をもたせたり、「振り返り」をさせたりすることで、生徒が「自立した学習者」としての力を身に付けることができるようにすることも重要です。

## 対話的な学びの実現に向けて

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

《「答申」より》

対話的な学びの「対話」には、生徒間の話合いやグループ活動だけでなく、生徒と教師との対話(発問等のやりとり)、地域の人などとの対話(講話等)、先哲との対話(歴史上の人物や文学作品の作者などの考え方に触れること)なども含まれます。生徒が対話的に学ぶためには、自分とは違う意見や考え方に触れて、考えを広げたり深めたりする機会を設けることが重要です。そのためには、「対話のテーマを工夫すること」「自分の意見をもたせた上で対話をさせるようにすること」「他者の意見や考え方を尊重できる雰囲気を醸成すること」が大切です。

## 深い学びの実現に向けて

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこれの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

《「答申」より》

生徒が深い学びをするためには、習得・活用・探究という学びのプロセスを意識した授業づくりを通して、生徒が多面的・多角的に物事を捉えたり、様々な考え方を駆使したりしながら、課題解決に向けて思考を巡らせ、深い理解、考えの形成、新しい価値の創造などにつなげることができるようにすることが大切です。

その際、事物を捉えたり思考を進めたりするときの鍵となるものが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。生徒たちは、国語の授業の中で「言葉による見方・考え方」を、数学の授業の中で「数学的な見方・考え方」を…という具合に、それぞれの教科等でそれぞれの「見方や考え方」を働かせながら「深い学び」をします。また、そのような学びを通して身に付けた、深い理解や思考力・判断力・表現力等の資質・能力によって「見方・考え方」がより豊かになります。「見方・考え方」と「資質・能力」はこのような相互の関係にあるものです。

普段の授業を三つの視点から見つめ直し、

不断の授業改善をする。

という教師の意識が、生徒たちの未来を支えます。

栃木県総合教育センター

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL : 028 (665) 7204 (研究調査部)

FAX : 028 (665) 7303

本調査研究の詳細についてはWebサイトで公開しています。  
こちらも御覧ください。

[http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/kyokasido\\_h29/](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/kyokasido_h29/)